



北海道周辺離島における地域活性化方策

国土交通省北海道局参事官

北海道においては年間を通して定住者のいる5つの離島（奥尻島、天売島、焼尻島、礼文島、利尻島）が日本海にあります。これらの島においては、人口減少や少子高齢化が全道平均よりも進行しています。

また、昨年の原油価格高騰は、全国に深刻な影響を及ぼしましたが、とりわけ離島においては、地域の経済活動や生活を支える物流・人流を海上輸送・航空輸送に頼らざるを得ないことから、輸送コストの増大が物価上昇や競争力に大きな影響を与えました。

このため、昨今の社会経済情勢を踏まえ、地域活性化に向けた課題の解決に向けて、地域と連携を図りつつ、交通基盤、産業基盤、生活基盤としての役割を果たしている港湾・漁港・道路等の社会資本に関して、緊急的に整備すべき社会資本を特定するとともに、効果的な社会資本の活用方策について調査しました。

調査にあたっては、関係町の協力のもとで、各島の住民および町役場、関係事業者の皆様にはヒアリング、アンケートにご協力いただき、課題を明確化するとともに、関係分野の有識者により構成される懇談会を設置し、課題解決方策を中心に議論いただきました。

1 北海道周辺離島の現況

今回、調査対象とした5つの離島（奥尻島、天売島、焼尻島、礼文島、利尻島）の概要は次のとおりです（図1）。

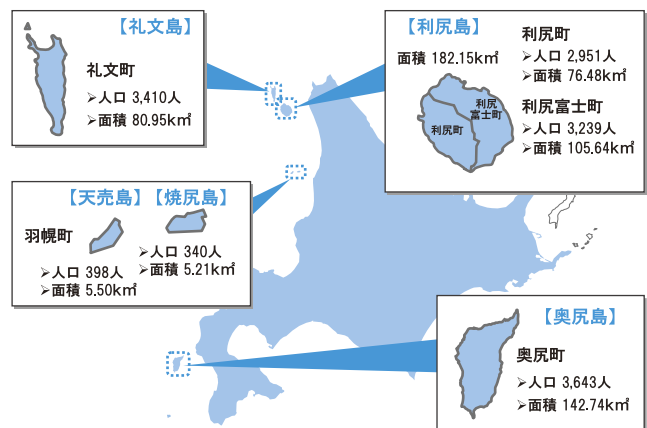


図1 調査対象の北海道周辺離島

これらの地域においては、人口減少が特に進行しており、主力産業である水産業も後継者が不足し、高齢化が進んでいます。また、もう一つの柱である観光も、近年、観光客数が減少傾向にあります。

これに加えて、短期的課題として燃油高騰時のコスト増大、物価高のほか、景気悪化による観光客の更なる減少が懸念されています。

2 懇談会の設置

今回、調査の実施に併せて、有識者から構成される懇談会を設置しました。

3回の懇談会には、4名の委員全員にご出席いただきました。第2回懇談会時には、地元利尻島・礼文島の各町長または副町長にも参加いただいたうえ、第1回、第3回の札幌開催時には、5町の町役場の担当職員に出席いただきました。また、各回とも関係機関として北海道、総務省北海道総合通信局、国土交通省北海道運輸局、北海道開発局の関係職員が出席しました。

3 離島地域の活性化に向けた課題の抽出

第1回の懇談会開催時に、各町より課題および取組状況について説明を受け、この内容をもとに、離島地域が抱えている課題を整理しました。

さらに、課題に対する解決方策の検討テーマを設定しました。当初は7つの検討テーマを提案しましたが、その後の懇談会等における検討を経て、最終的に6テーマを設定しました(図2)。

また、課題明確化と効果的な解決方策の検討のため、各島の住民、役場、漁業協同組合、観光協会、運輸機関、民間事業者等に対するヒアリング調査を実施しました。

ヒアリング結果は、先の課題設定を具体的な事例で裏付ける内容であり、今後の対策、取組に際しては、各地の事情に応じた対策が求められます。

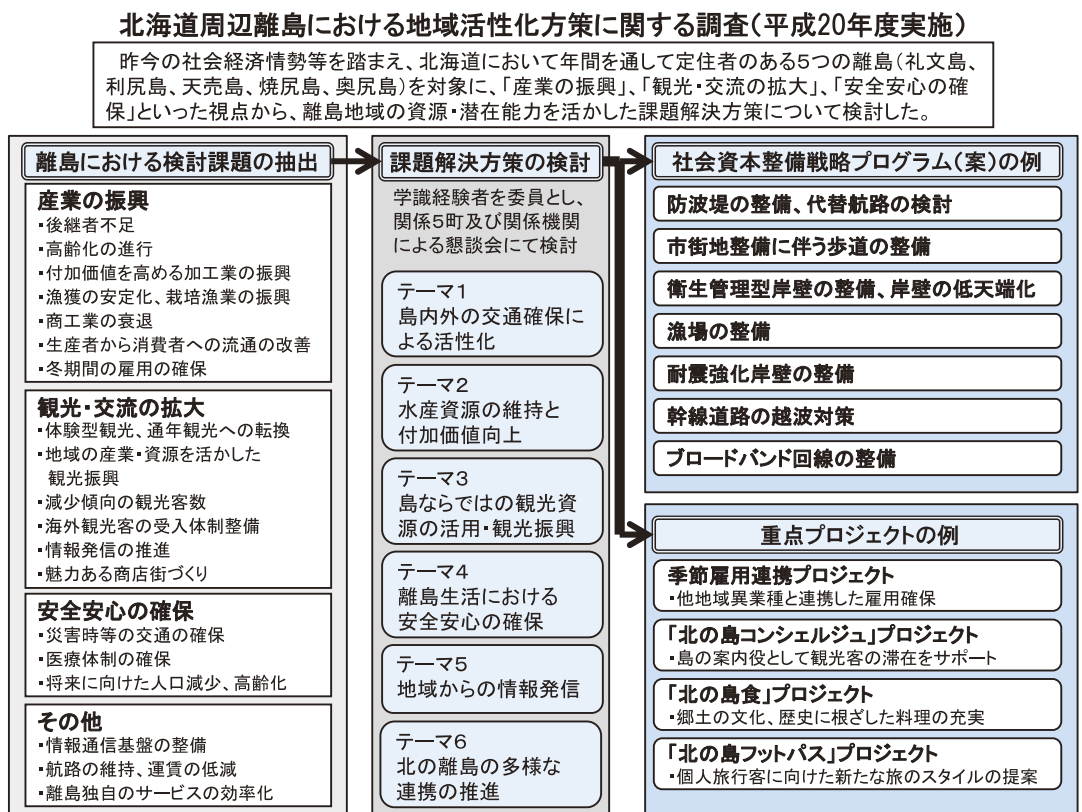


図2 調査の全体概要

北海道周辺離島における地域活性化方策に関する懇談会

○委員（50音順）

- 篠崎 宏 氏 (株)ツーリズム・マーケティング研究所主任研究員
- 高野 伸栄 氏 北海道大学公共政策大学院准教授
- 高谷 邦彦 氏 名古屋短期大学現代教養学科准教授
前稚内北星学園大学情報メディア学部准教授
- 山下 成治 氏 北海道大学大学院水産科学研究院准教授

○開催日程

	開催日	開催地	主な議題
第1回	平成20年 12月12日	札幌市	北海道周辺離島の現状、課題
第2回	平成21年 2月3日	利尻 富士町	礼文島・利尻島地域をモデルとした 課題解決方策の検討
第3回	3月6日	札幌市	北海道周辺離島地域における課題解決 方策の検討



4 課題解決方策および重点プロジェクトの検討

3で設定した課題解決方策のうち、重点化して検討した内容は次のとおりです。

テーマ1 島内外の交通確保による活性化

離島においては、航路、航空路の運賃や航送料が生活・産業面での負担となっているうえ、冬期を中心に荒天時の欠航という不確実性を抱えています。

昨年末から今年の年始にかけても、10日間のうち4日しかフェリーが運航されない状況であり、稚内で船待ちした後、帰省をあきらめた島の出身者も少なくありませんでした。この対策として、防波堤の整備による静穏度の向上や荒天時の代替航路の検討などにより、船舶の安定運行確保に努めるとともに、島内交通も含めた関係機関で構成する協議会の開催により、利用促進や島民の負担軽減を図る社会実験の調査・検討を提案しています。

テーマ2 水産資源の維持と付加価値向上

利用が少ない地域資源の加工や料理での活用により、付加価値向上による所得向上を図るため、地元連携体制の構築、調査研究の展開、急速冷凍や加工のための設備投資を図ることが有効と考えられます。

既に島によっては、新たな加工品の開発、急速冷凍・蓄養などの新技術による安定供給・品質向上の取組が進められています。

また、漁業者の担い手対策として、新規担い手確保に向けた技術支援、財政的支援や、作業のピークが異なる他地域異業種との連携、さらに高齢化や小型漁船に対応した岸壁の低天端化を進めます(図3)。

テーマ3 島ならではの観光資源の活用・観光振興

夏期のみを通過型観光から、年間を通じた滞在型観光への転換を図ることで、島内の消費が拡大し、リピーターの増加も期待されます。このため、フェリーターミナルや観光案内所等に「北の島コンシェルジュ」を

季節雇用連携プロジェクト

・漁業就業者の高齢化、担い手不足対策の一つとして、他地域異業種と連携したワークシェア等による雇用労働を確保

■昆布干しアルバイトの募集事例

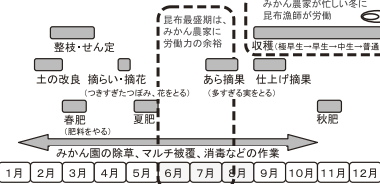
- 期間 6月20日から8月10日頃までの期間中、3週間以上
- 作業内容 利尻昆布干し(天日乾燥)及び回収作業、製品(昆布)づくり作業(雨の日の作業)
- 年齢 18歳以上の男女(高校生不可) 大学生歓迎
- 賃金 男女共 時給1,000円~1,600円(但し、製品作り作業は時給750円)
- 待遇 宿舍貸具完備



出典:利尻町ホームページより抜粋

■みかん農家と昆布漁とのコラボレーション(案)

・みかん農家の主な作業



みかん農家は冬期の雇用労働力確保に苦勞しており、外国人の雇用もあります。継続的な関係構築により雇用労働の技術も向上するなどのメリットも期待できます。(和歌山県庁東園芸課談)

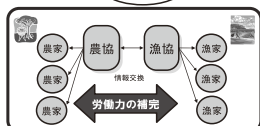


図3 季節雇用連携プロジェクト

「北の島コンシェルジュ」プロジェクト

・フェリーターミナルや観光案内所等で島の案内役としてあらゆる情報を紹介・案内し、観光客が安心して観光を満喫できるようサポート
 ・宿泊情報・飲食店情報・交通情報・買物情報・レジャー情報・文化教育施設情報、イベント情報等の情報発信と共に、独自の事業運営を期待

- 新たな役割の期待
- (1) 組織・人材の連携促進
 - (2) 観光資源(文化資源・自然資源など)の発掘と独自の体験観光ツアー開発
 - (3) 観光客と島民の交流促進
 - (4) ポータルサイトの運営



インフォメーションコーナー

■株式会社ニセコリゾート観光協会の事例

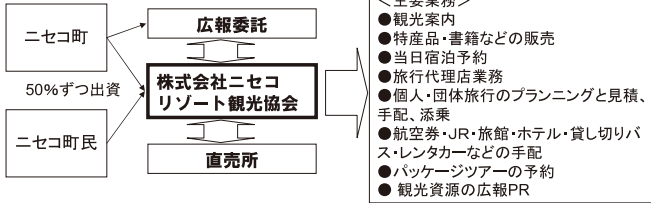


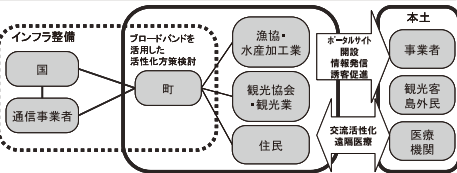
図4 「北の島コンシェルジュ」プロジェクト

ブロードバンド整備プロジェクト

離島と本土を結ぶ光ファイバー網の整備により、デジタルデバイドの解消を図る。ブロードバンド環境を活用した情報発信、産業振興、生活利便性の向上、新規雇用の創出を目指す。

■活用イメージ

- ★観光情報の発信
- ★ポータルサイトの開設
- ★水産物販売サイトの作成
- ★遠隔医療(画像送受信)
- ★大学との連携による遠隔医療の実証実験
- ★新規就業環境の創出
- ★SOHO、...等。



■整備イメージ

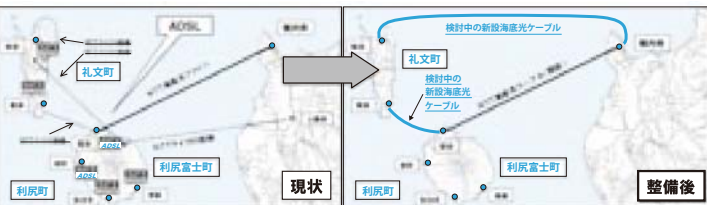


図5 ブロードバンド整備プロジェクト

配置し、島の案内役としてあらゆる情報を紹介・案内することで、観光客が島を満喫できるようサポートするとともに、新たな観光資源の発掘や体験観光ツアーの開発等、島独自の取組を推進します(図4)。

また、ピーク時を外した教育旅行の誘致や島ならではの体験メニュー、イベントの発掘により、オフシーズン対策を図ります。

テーマ4 離島生活における安全安心の確保

離島では、医療、教育等の日常の生活環境の確保のために、航路の確保と併せて集落間を結ぶ道路の確保が重要です。しかし、幹線道路が海岸線に位置し、越波や土砂災害の危険箇所が存在しており、災害時に孤立集落が発生する恐れがあります。

このため、耐震強化岸壁や防災緑地の整備、越波対策や土砂災害対策の着実な推進を図ります。

テーマ5 地域からの情報発信

離島各地と本土を結ぶ光ファイバー網の整備等により、デジタルデバイドの解消を図るとともに、ブロードバンド環境を活用した情報発信、産業振興、生活利便性の向上、新規雇用の創出を目指します(図5)。

テーマ6 北の離島の多様な連携の推進

懇談会の議論を通じて、離島単独での活性化には限界があり、「新しい切り口」が必要である点が認識されました。北海道の離島同士が生活・産業・観光交流・情報など、多様な面において連携し、離島地域全体のポテンシャルを向上させるとともに、島ごとに異なる魅力の補完により、新たな価値を生み出すことが期待されます(図6)。

テーマ6 : 北の離島の多様な連携の推進

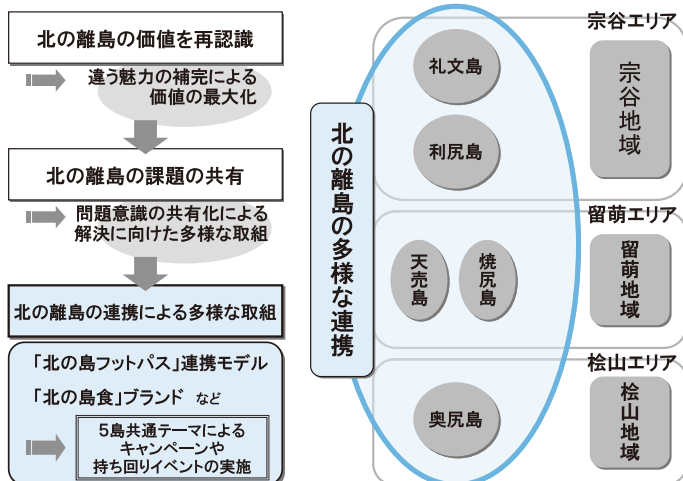


図6 北の離島の多様な連携の推進

『北の島食』プロジェクト

- ・5島の連携による「北の島再発見シリーズ」の一環として、食の連携による魅力向上を図る。
- ・よそ行きメニューではなく、郷土の文化、歴史に根ざした料理の充実を図る。
- ・地域産品の特性を最大限活かす展開を図る。

北の島再発見シリーズ(北の島食)

- 郷土料理
- 採れたて素材
- 新メニュー
- 売っていない素材の提供
- 自ら採取した材料の利用
- 食べ比べ

■郷土料理(事例)



写真:礼文町郷土料理レシピ

- ・ほっけ蒲鉾 ・タチの蒲鉾
- ・ほっけ汁 ・ごっこ汁
- ・ささめ(魚のエラ)の煮付
- ・利尻春先昆布
- ・トクダツ
- ・タチチュウ(胃)の塩辛
- ・カヅノの卵の醤油漬
- ・ごっこ汁 ・あかぼや 等

■新しいメニューや加工品の開発



奥尻フイヤーベース

■伝統料理の紹介



礼文町・伝統料理レシピ

■観光の魅力演出する食の工夫(例)

- ・殻付ウニの提供
- ・安定的なウニの提供
- ・鉄平石を使った磯焼
- ・漁師の倉庫を使ったレストラン
- ・5島ウニ食べ比べ
- ・新鮮、採れたて魚介類の提供
- ・活魚
- ・体験メニューで自ら採取した魚介類、山菜等の料理等

図7 「北の島食」プロジェクト

『北の島フットパス』プロジェクト

奥尻島・礼文島におけるフットパスを5島に展開し、連携によってブランド化

■個人旅行客集客に向けたプラットフォームづくり

- 離島だけではなく、宗谷シーニックハイウェイ、萌える天北オロロンルート、ドーナツ・追分シーニックハイウェイなどと連携を図りつつ、個人に向けた新たな旅のスタイルを提案することでマーケット規模の拡大を図る。

■プラットフォームの活用による可能性

- ・地域間連携によるリピーター構築
- ・地域間の共同プロモーションやキャンペーン等が容易に
- ・産(旅行会社、地元飲食店、漁協、住民等)、官(町、環境省、シーニック関連機関)、学(教育委員会)と地域が一体となった戦略構築が可能に
- ・ターゲットをセグメントした、効果的なプロモーション展開の実現と測定が可能に
- ・情報共有によってマーケットのトレンドの把握が容易に

地域に観光客誘致のノウハウが蓄積されることで、ニースに即した観光事業が展開可能

図8 「北の島フットパス」プロジェクト

5 今後の取組

今回の各テーマの課題解決方策には、社会資本整備戦略プログラム(案)としてまとめたハード整備を主体とするものに加え、主に重点プロジェクトとして提案しているソフト施策が含まれています。

特に、懇談会の議論の過程で提案されたテーマ6「北の離島の多様な連携の推進」については、早速、5島が連携した取組を開始しています。

このうち「北の島食」プロジェクトは各島の郷土の文化・歴史に根ざした料理を充実し、5島で連携して北の離島の食の魅力向上を図るものであり、既に新たな料理の研究も始められています(図7)。

また、「北の島フットパス」プロジェクトは礼文島や奥尻島で先行しているフットパスを5島に展開し、連携によってブランド化を図るものですが、フットパスルートの検討のほか、公共交通機関による足の確保も課題であり、観光船就航と併せた周遊ルートも計画されています(図8)。

各島では町役場やNPO団体を中心に「地方の元気再生事業」(内閣官房)や「建設業と地域の元気回復事業」(国土交通省)といった地域の先導的な取組を支援するモデル事業に積極的に応募しています。

国土交通省北海道局としても、北海道の離島地域の活性化に向け、ハード、ソフトにわたる施策について、各町や関係機関と連携して取り組んでまいります。

*

最後に、今回の調査にご協力いただいた4名の懇談会委員の皆様、ヒアリング調査等にご協力いただいた各島の皆様、関係町の町長をはじめ関係部署の職員の皆様、ほか関係機関の皆様がこの場をお借りして御礼申し上げます。